

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技 1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	前期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	なし。参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	小野・青野・青木・MARI・澤田		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
ヴォーカリストとしての個性を徹底的に伸ばし、高いクオリティーで表現できる作品制作を目指す。そのためには学生各自が目指すサウンドの探求のみならず、幅広い知識、様々なスキルが求められる。本授業では各専攻に分かれ各教員が個別に指導し、オリジナル曲の作成やライブに必要なパフォーマンスなどを指導する。また、他コース学生との、共作、アレンジ作業、演奏や歌の録音作業等のコラボレーションを積極的に実施することにより、柔軟な対応力、幅広い視野を身につける。					
到達目標					
学生各自がイメージするオリジナル作品の完成に向け、個性や歌唱力、パフォーマンス力の向上を目標とする。また、短時間でのレコーディング能力や基本的な音楽理論の学習、既存楽曲の分析により多様なメロディ、コード進行、リズムパターン、アレンジアイデアを生み出せる能力を身につける。 前期にワンコーラス楽曲を1曲、後期にフルコーラス楽曲2曲の完成を目指す。					
教育方法等					
授業概要	1年生においては、8曲のPOPSの課題曲を用意し、自分のオリジナル曲ができるまでは課題曲を練習する。課題曲と並行してオリジナル曲の作成にも取り掛かる。各自のイメージを具体化したテーマを持った楽曲制作をし、講師はそのクオリティを上げるべく個別に指導する。他コース学生と共同での楽曲制作、歌や楽器の録音、エディットやミックス作業ののち、定期的に授業内発表をおこなう。各学生の個性、音楽経験、コラボレーション相手により様々な状況に直面するが、作業をしながらその都度必要なスキルを身につけていく。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。USBメモリー、ヘッドフォン、変換アダプター、ノート、五線譜を持参すること。学生個人が所有するPC、スマートフォン、タブレットを用いた学習を行う際はその使用を適宜許可する。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する。		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内におこなう試聴会、内容について評価する。		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	オリエンテーション		自分の課題を見つけて練習の方法を見つける事ができる。		
2 回	個別レッスン・練習課題曲song1-1		練習課題曲1 を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。		
3 回	個別レッスン・練習課題曲song1-2		練習課題曲1 を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。		
4 回	個別レッスン・練習課題曲song1-3		練習課題曲1 を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。		
5 回	個別レッスン・練習課題曲song1-4		練習課題曲1 を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。		
6 回	個別レッスン・練習課題曲song2-1		練習課題曲2 を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。		
7 回	個別レッスン・練習課題曲song2-2		練習課題曲2 を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。		
8 回	個別レッスン・練習課題曲song2-3		練習課題曲2 を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。		
9 回	個別レッスン・練習課題曲song2-4		練習課題曲2 を通じて、オリジナル曲を歌う準備ができる。		
10 回	個別レッスン・オリジナル曲1-1		プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音準備ができる。		
11 回	個別レッスン・オリジナル曲1-2		プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の演奏ができる。		
12 回	個別レッスン・オリジナル曲1-3		プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音ができる。		
13 回	個別レッスン・オリジナル曲1-4		プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音ができる。		
14 回	個別レッスン・オリジナル曲1-5		プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の編集ができる。		
15 回	まとめ		前期のまとめ		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技 1
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実技		
教科書/教材	なし。参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	永田、杉本、樗木			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン
学習目的					
サウンドクリエイターとしての個性を徹底的に伸ばし、高いクオリティーで表現できる作品制作を目指す。そのためには学生各自が目指すサウンドの探求のみならず、幅広い知識、様々なスキルが求められる。本授業では講義とともに各自cubaseで制作作業をするなかでそれらを身につけ、定期的な授業内発表により、締め切りに向けた自分なりの作業工程の組み立てを考えさせ、「人前で発表する」とはどういうことかを体感する。また、他コース学生との、共作、アレンジ作業、演奏や歌の録音作業等のコラボレーションを積極的に実施することにより、柔軟な対応力、幅広い視野を身につける。					
到達目標					
学生各自がイメージする作品の完成に向け、高いクオリティーでのアレンジ、音色選び、ミックスがスピーディーにできることを目標とする。そのためにショートカットや使用音色の把握等による素早いcubase操作、作曲編曲方法のヴァリエーションを習得する。また、基本的な音楽理論の学習、様々な楽器の知識の習得、既存楽曲の分析により多様なメロディ、コード進行、リズムパターン、アレンジアイデアを生み出せる能力を身につける。前期にワンコーラス楽曲を2曲、後期にフルコーラス楽曲2曲の完成を目指す。					
教育方法等					
授業概要	学生各自がcubaseを使用し、各自のイメージを具体化したテーマを持った楽曲制作をし、講師はそのクオリティを上げるべく個別に指導する。適宜、音楽知識、制作技術、その他弱点補強の講義もおこなう。他コース学生と共同での楽曲制作、歌や楽器の録音、エディットやミックス作業ののち、定期的な授業内発表をおこなう。各学生の個性、音楽経験、コラボレーション相手により様々な状況に直面するが、作業をしながらその都度必要なスキルを身につけてゆく。				
注意点	この授業では、キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。USBメモリー、ヘッドフォン、変換アダプター、ノート、五線譜を持参すること。学生個人が所有するPC、スマートフォン、タブレットを用いた学習を行う際はその使用を適宜許可する。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	10%	試験と課題を総合的に評価する。		
	授業内発表	10%	授業時間内におこなう試聴会、内容について評価する。		
	提出物	50%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	cubaseの使い方		cubaseの基本的な使い方を習得できる。		
2 回	音色の把握		システム内にどのような音色があるかを把握できる。		
3 回	楽器ごとの打ち込みのコツ		基本的な楽器ごとの打ち込みのコツがわかる。		
4 回	基礎力をつける作曲（1曲目）		メロディ、コード、リフ、リズムパターン等、きっかけとなるモチーフを1つ以上作ることができる。		
5 回	1曲目の骨組み作り(1)		モチーフをきっかけとして、セクションの骨組みを作ることができる。		
6 回	1曲目の骨組み作り(2)		セクションの骨組みから、ワンコーラスに発展できる。		
7 回	1曲目のワンコーラスの完成		ワンコーラスの骨組みを完成することができる。		
8 回	1曲目のミックスと提出		ワンコーラスの骨組みをブラッシュアップし、ミックスし、提出することができる。		
9 回	完成曲の授業内発表		完成曲を学生全員で聞き、個別の弱点を把握できる。		
10 回	作曲方法のバリエーション		様々な作曲方法を学び、スピーディーかつクオリティの高い作品制作のTIPSを習得できる。		
11 回	テーマを持った作曲（2曲目）		学生自身、または講師がテーマを決め、そこに向けたモチーフを作ることができる。		
12 回	2曲目の骨組み作り(1)		モチーフをきっかけとして、セクションの骨組みを作ることができる。		
13 回	2曲目の骨組み作り(2)		セクションの骨組みから、ワンコーラスに発展できる。		
14 回	2曲目のワンコーラスの完成		ワンコーラスの骨組みを完成することができる。		
15 回	まとめ		ワンコーラスの骨組みをブラッシュアップし、ミックスし、提出できる。		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技 1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ギター専攻	開設期	前期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実技		
教科書/教材	適宜レジュメ・資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	岡		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
オリジナル作品を作ることに対応できるための、アレンジの基本となるギターの奏法やテクニック、知識を学ぶ。ギターの実技指導を受けながら、同時並行でヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションによって随時作品制作も行っていく。既存楽曲をコピーして演奏できるだけではなく、自身のアイデアでバックングパターンやギターソロのメロディづくりなど、オリジナル曲でのギターパートが発想できるようになる。					
到達目標					
オリジナル曲を完成させるにあたり、ギターパートを自身のアイデアで創作し、演奏することができる。アーティストとしての作品が作れるための演奏能力を磨く。バックングの技術や歌を生かす演奏、リードシートのコードを読み解きながら、最適なコードポジション、テンションの活用や、カポタストを利用したオープンボイシングでの奏法等をベースとしながら、オリジナル曲を完成させる。レコーディングに対する知識を得ることや、他の楽器の演奏内容に注意して各パートを尊重しあえるようなプレイスタイルを獲得することを到達目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	学生個々の個性を活かすことに留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。ヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションしながら随時作品制作も行っていく。「オリジナル作品制作」授業からオリジナル楽曲のマテリアルを受け取り、この授業で学んだアレンジの知識とアイデアを活かしてレコーディングを行う。仕上げた楽曲は「アンサンブル」授業でリハーサルを重ね、ライブで発表するための演奏力を向上させる。				
	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	コード・フォーム(1)		基本的なコード・フォームとその発展形を理解し、弾ける。		
2回	コード・フォーム(2)		ベーシックなコード進行で、学んだコード・フォームを自身のアイデアで組合せ、ストロークやアルペジオで弾ける。		
3回	ギター・リフ(1)		ギター・リフについて理解し、シンプルなリフが弾ける。		
4回	ギター・リフ(2)		ギター・リフを自身のアイデアで作成出来る。		
5回	カッティング・ベーシック(1)		カッティングのベーシックなパターンが弾ける。		
6回	カッティング・ベーシック(2)		カッティング・パターンを自身のアイデアで作成出来る。		
7回	ピッキング・リズム(1)		単音でのピッキング・リズムを理解し、シンプルなパターンが弾ける。		
8回	ピッキング・リズム(2)		ピッキング・リズムでのバックング・パターンを自身のアイデアで作成出来る。		
9回	ブルース・スタイル・ベーシック(1)		ブルース・スタイルのベーシックなバックングが弾ける。		
10回	ブルース・スタイル・ベーシック(2)		ブルース・スタイルのベーシックなバックングが弾ける。		
11回	ギター・ソロ・ベーシック(1)		ベーシックなコード進行で、シンプルなギター・ソロ・フレーズを作成出来る。		
12回	ギター・ソロ・ベーシック(2)		ベーシックなコード進行で、発展させたギター・ソロ・フレーズを作成出来る。		
13回	バックング・バリエーション(1)		ミュート奏法やオクターブ奏法、ハンマーリング、プリング、スライドなどを使用したバックング・バリエーションが弾ける。		
14回	バックング・バリエーション(2)		ベーシックなコード進行で、学んだバックング・バリエーションを自身のアイデアで組み合わせて弾ける。		
15回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	専攻実技 1	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	プレイヤーコース ベース専攻		開設期	前期
対象年次	1 年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	1 単位		授業形態	実技			
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。						
担当教員情報							
担当教員	大寺			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的							
エレクトリックベースの技能修得はもちろん、オリジナル曲を完成させることを最大の目的とする。デモ段階の楽曲（自作、他作を問わない）にどのようなベースラインを構築すればその楽曲の魅力を引き出すことが出来るのか、メロディやコード進行等を鑑みながら考察していく。また音楽制作は他者との協働が不可欠であることを理解し、他コース学生とも積極的にコラボレーションを行いながらクオリティの高いオリジナル楽曲を制作する。							
到達目標							
自作、他作を問わず、その楽曲の魅力を最大限に引き出すようなベースラインのアレンジができるようになることを目標とする。ルート音だけでなく、コードトーンを意識したベースライン、メロディがよりドラマティックに聴こえるようなベースライン、バンドメンバーを安心させるような安定したベースライン等、様々な角度からベースパートの在り方について学んでいく。同時にこれらを表現するためのフィジカル面の修得も欠かすことはできない。							
教育方法等							
授業概要	学生個々の個性を活かすことに留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。ヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションしながら随時作品制作も行っていく。「オリジナル作品制作」授業からオリジナル楽曲のマテリアルを受け取り、この授業で学んだアレンジの知識とアイデアを活かしてレコーディングを行う。仕上げた楽曲は「アンサンブル」授業でリハーサルを重ね、ライブで発表するための演奏力を向上させる。						
	学生間のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	指板の理解、基本的なフォーム			ローポジションの指板上の音名を把握できる。			
2回	コードとベースパートの関係			コードとベースパートの関係が理解できる。			
3回	4小節のコード進行に対するベースライン			4小節のコード進行に対し、様々なリズムでベースラインが弾ける。			
4回	8小節のコード進行に対するベースライン			8小節のコード進行に対し、様々なリズムでベースラインが弾ける。			
5回	Fill in について			4小節、8小節のコード進行に対し、fill inを含めて様々なリズムでベースラインが弾ける。			
6回	8ビートについて(1)			「Stand by me」をコード進行を理解しながら弾ける。			
7回	8ビートについて(2)			「空も飛べるはず」をリードシートを見ながらルート音が弾ける。			
8回	8ビートについて(3)			「空も飛べるはず」をリードシートを見ながらコードトーンを意識したベースラインが弾ける。			
9回	8ビートシャッフルについて(1)			「Black night」のリフが弾ける。			
10回	8ビートシャッフルについて(2)			「Isn't she lovely」をリードシートを見ながらコードトーンを意識したベースラインが弾ける。			
11回	16ビートについて(1)			「Another One Bites the Dust」のリフが弾ける。			
12回	16ビートについて(2)			「What's going on」をリードシートを見ながらコードトーンを意識したベースラインが弾ける。			
13回	オリジナル曲のベースパートアレンジ(1)			オリジナル曲のベースパートをアレンジし、演奏することが出来る。			
14回	オリジナル曲のベースパートアレンジ(2)			オリジナル曲のベースパートをアレンジし、演奏することが出来る。			
15回	まとめ			全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技 1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース ドラム専攻	開設期	前期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実技		
教科書/教材	なし				
担当教員情報					
担当教員	田原		実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的					
ドラムという楽器の仕組みや役割について正しく理解し、同時に技術習得のために無駄のない身体コントロールを体得する。また、8ビート、16ビートの基本的なビートパターンやシンコペーションについて学びながら、「自分の弱点や苦手分野の理解・把握」、「個々の個性を伸ばす事」を常に意識して学ぶ。その結果としてバンドミュージシャン、サポートミュージシャン、スタジオミュージシャンなど、あらゆる形でデビューでも現場での様々な要求に対応できる知識、技術を身に付けることをねらいとする。					
到達目標					
ドラムの実技に関して、以下の3点のスキルを獲得する事を到達目標とする。 1.授業内で学んだビートやルーディメンツを自分なりに応用し、個性を活かしたアプローチを構築し、表現する事が出来る。 2.今後あらゆるジャンルに対応出来るように、ジャンルごとのビートパターンやアプローチを理解し、即座に対応が出来る。 3.楽曲のイメージや、演奏環境を考慮し最適な音作り（チューニング）が出来る。					
教育方法等					
授業概要	学生個々の個性を活かすことに留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。ヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションしながら随時作品制作も行っていく。「オリジナル作品制作」授業からオリジナル楽曲のマテリアルを受け取り、この授業で学んだアレンジの知識とアイデアを活かしてレコーディングを行う。仕上げた楽曲は「アンサンブル」授業でリハーサルを重ね、ライブで発表するための演奏力を向上させる。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	ドラムという楽器の理解		各パーツの音色と役割、基本的なセッティングなどの基礎知識を習得できる。		
2 回	グリップ、ストロークの理解		基本的なスティックの持ち方（グリップ）、腕の使い方（ストローク）についてわかる。		
3 回	8ビートの習得(1)		8ビートの基本パターンと簡単なフィルを習得できる。		
4 回	8ビートの習得(2)		ハイハットオープン、ハイハットクローズ、ライドシンバルの使い分けを習得できる。		
5 回	ハイハットアクセントの理解(1)		アップダウン奏法を活用し、8分の表拍にアクセントを置いた8ビートパターンを習得できる。		
6 回	ハイハットアクセントの理解(2)		アップダウン奏法を活用し、8分の裏拍にアクセントを置いた8ビートパターンを習得できる。		
7 回	シンコペーションの理解(1)		8ビート上でのハイハット、シンバルを用いたシンコペーションアプローチを習得できる。		
8 回	16ビートの習得(1)		片手のみで16分音符のハイハットを刻む16ビートパターンを習得できる。		
9 回	16ビートの習得(2)		8ビートに16分音符のスネアを絡めた16ビートパターンを習得できる。		
10 回	16ビートの習得(3)		8ビートに16分音符のバスドラムを絡めた16ビートパターンを習得できる。		
11 回	16ビートの習得(4)		両手で16分音符のハイハットを刻む16ビートパターンを習得できる。		
12 回	16ビートの習得(5)		8ビートにスネアでのゴーストノートを絡めた16ビートパターンを習得できる。		
13 回	16ビートの習得(6)		4分音符のハイハットに16分音符を絡めた16ビートパターンを習得できる。		
14 回	16ビートの習得(7)		ハネたリズムの16ビートを習得し、16分ハネについてわかる。		
15 回	まとめ		全体のまとめ		

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技 1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース キーボード専攻	開設期	前期
対象年次	1 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実技		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書：キーボードバックイングまる覚え、ジャズ無窮動トレーニング				
担当教員情報					
担当教員	堀越			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン
学習目的					
次世代をリードするプロフェッショナル・キーボーディストになる上で必要となるものは、運指等のテクニックだけではなく、コード、スケール、リズム（グルーブ）を実践的に理解して演奏していくことである。この授業では、学生個々の音楽の方向性を考慮しながらも、ジャズ的な要素も積極的に導入しつつ演奏技術を習得していくが、同時に音楽史に残る名曲、名演奏のエッセンス、時代によって変化するポップ・ミュージックの本質に接する中で現代的センスを吸収させ、よりクオリティの高いオリジナル作品を完成することも合わせて目的とする。					
到達目標					
次世代型キーボーディストのモデルとして、Cory Henry、Robert Glasper、Jacob Collier を設定し、彼らの持つ演奏テクニックの完全な再現ではなく、彼らの持つJazz的要素、R&B的要素を理解し、自らの音楽性に生かしていけるキーボーディストを目指す。最終的（2年次終了時）には基礎的なJazzハーモニーおよびフレー징ングの定着を図る（同時に差異点を明らかにすることでRockやJ-POPなどにも対応する）が、理論的理解がまだそれほど深くないと思われる1年次においては音楽理論系の授業に先行させ、実践的な基礎理論や装飾音のニュアンス、グルーブといった、キーボード演奏に有効なものを学んでいくことを目標とする。同時にオリジナル曲の作曲、オリジナルアレンジの質を高めていく。					
教育方法等					
授業概要	学生個々の個性を活かすことに留意しながら、グルーブレッスン形式で進行する。ヴォーカリストコース・サウンドクリエイターコース学生とのコラボレーションしながら随時作品制作も行っていく。「オリジナル作品制作」授業からオリジナル楽曲のマテリアルを受け取り、この授業で学んだアレンジの知識とアイデアを活かしてレコーディングを行う。仕上げた楽曲は「アンサンブル」授業でリハーサルを重ね、ライブで発表するための演奏力を向上させる。				
	学生ではあっても「表現者」の一人としての積極的な授業参加を求めたい。授業中の私語や横柄な受講態度が望ましくないことは言うまでもないが、自分の精神を委縮させてしまっは十分以上の表現をすることはプレイヤーにとって難しい。アンサンブルないし音楽的コミュニケーションとは良好な人間関係と本質的に同義だと理解し、講師や友達と良好な関係を築くように努力すること。理由のない遅刻や欠席は認められない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	音／音楽の三要素とキーボード		音の三要素、音楽の三要素とキーボードの特性についてわかる。		
2 回	四和音(1)		三和音（メジャー、マイナー、dim、aug）、△7thノート、7thノートを半音で平行移動できる。		
3 回	四和音(2)		四和音のダイアトニック・コード、度数表記、ハーフディミニッシュとdim7の違いがわかる。		
4 回	リズム、グルーブ(1)		身体運動と音楽のリズムについて習得し、4分音符、8分音符を演奏できる。		
5 回	機能と声とモード(1)		メジャー・スケールをペアレント・スケールとする7つのスケールについて習得できる。		
6 回	機能と声とモード(2)		機能と声とモードの違いについて、またハノンなどのスケール練習法がわかる。		
7 回	機能と声とモード(3)		7つのダイアトニック系モーダル・スケールを演奏し、聴き分けることができる。		
8 回	テンション・ノートの基礎		各ダイアトニック・コードを上方向に拡張して得られるテンション・ノートがわかる。		
9 回	トライアド（復習）		メジャー・トライアドを半音で平行移動させフォームを記憶できる。各種変形コードを演奏できる。		
1 0 回	リズム、グルーブ(2)		日本人のリズム傾向およびそれへの対策についてがわかる。		
1 1 回	ケース・スタディ		Knower "Time Traveler" "Overtime"などのリフ、コード進行、コードボイスングについて分析できる。		
1 2 回	モーダル・ソロ・アプローチ(1)		7つのダイアトニック系モーダル・スケールを復習し、フレー징ングができる。		
1 3 回	モーダル・ソロ・アプローチ(2)		マイナー・ペントタニック・スケール、ブルース・スケールについてフレー징ングができる。		
1 4 回	モーダル・ソロ・アプローチ(3)		モーダル・スケールを使ったフレー징ングの応用方法がわかる。		
1 5 回	まとめ		前期のまとめ		